

第9回 耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会

令和元年の耳川流域の概況

令和2年8月5日

～令和元年 耳川流域の特徴～

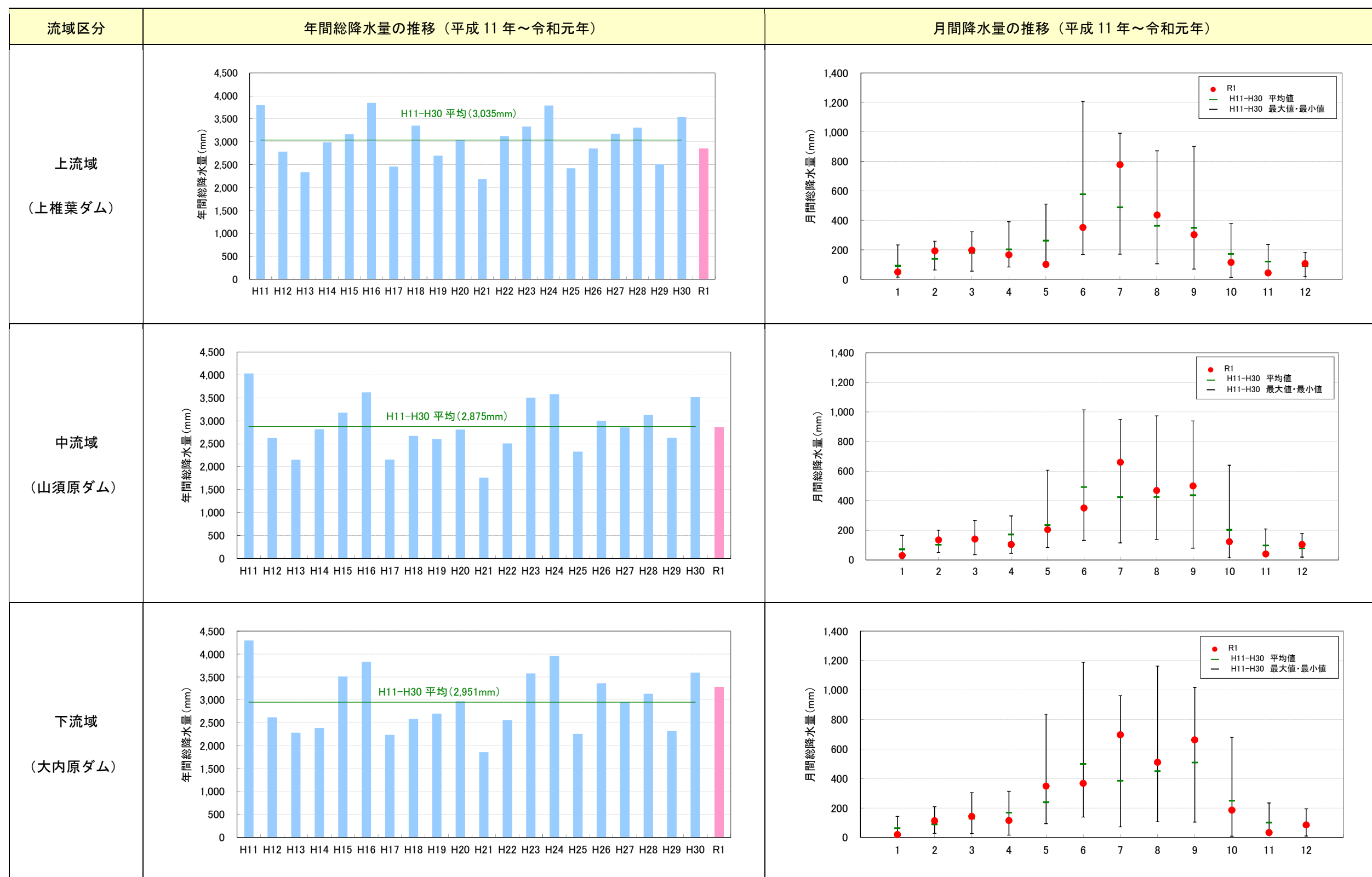
- 令和元年の年間降水量は、上流域と中流域では平均（平成11～30年）より少なく、下流域では平均（平成11～30年）よりやや多い年であった。
- 令和元年の月間降水量は、全て平成11～30年の変動の範囲内であったが、月間平均降水量と比較すると、4～6月は平均よりも降水量が少なく、7月～9月は平均よりも降水量が多い傾向であった。
- 令和元年の主な出水は、台風8号（8月6日）と台風17号（9月22日）であった。
- 山須原ダムで最も大きかった台風8号（8月6日）の出水規模は、最大流入量が $651\text{m}^3/\text{s}$ であり、平成11年以降の21年間で4番目に小さい規模の流入量であった。
- 大内原ダムで最も大きかった台風17号（9月22日）の出水規模は、最大流入量が $832\text{m}^3/\text{s}$ であり、平成11年以降の21年間で4番目に小さい規模の流入量であった。

1. 降水量の概況

各流域（上流域、中流域、下流域）の年間降水量と月間降水量を整理した。

令和元年の年間降水量は、上流域と中流域では平均（平成11～30年）より少なく、下流域では平均（平成11～30年）よりやや多い年であった。

令和元年の月間降水量は、全て平成11～30年の変動の範囲内であったが、月間平均降水量と比較すると、4～6月は平均よりも降水量が少なく、7月～9月は平均よりも降水量が多い傾向であった。



2. 出水の概況

令和元年の主な出水は、台風8号（8月6日）と台風17号（9月22日）であった。

山須原ダムで最も大きかった台風8号（8月6日）の出水規模は、最大流入量が651m³/sであり、平成11年以降の21年間で4番目に小さい規模の流入量であった。

大内原ダムで最も大きかった台風17号（9月22日）の出水規模は、最大流入量が832m³/sであり、平成11年以降の21年間で4番目に小さい規模の流入量であった。

